起点に両手指を正しく置き、終点までたどり、両手指で戻る。

起点に両手を置き、右手だけで終点までを往復する。さらに終点に両手を置き、起点までを左手だけで往復する。

両手指の行たどりに習熟したら、左右それぞれの指で別々にたどる。

「１本の線路」や「２本の線路」などの言葉で表現しながらたどったり、終点の形を触知できたら「ゴール」、行を移して「次のスタート」をすばやくしたりするなど、言葉と動作も関連付けられるとよい。

第２節　点字の枠組み（行・マス）の意識化

１　触読の特性と点字の枠組み

点字は、触覚によって読み取る文字である。点字の上に指先を置いて、左から右へ移動させることにより読むことができる。ただ置いただけでは点の弁別はできない。指の運動により、通過した部分の点を弁別して読み取っていく。点字熟読者であっても、指先が点字に接した部分の一字一字しか読み取ることはできない。そのため、視覚によって漢字仮名交じり文を読み取るような一覧性はなく、指先に触れた文字の短期記憶を積み重ねながら長い文章を読み取っているのである。

また、漢字仮名交じり文の墨字では文節の頭にくる言葉が漢字で表記される場合が多く、視覚によって意味の切れ目を認識しやすいが、表音仮名文字の点字では、文章を続けて書くと意味の切れ目が認識しづらい面がある。

こうした触読の特性*[16]から、点字では、小学校低学年用の墨字の教科書にみられるような分かち書きを採用している。この分かち書きの切れ目に当たる部分を点字では一マスあけて表記する。この文字を書かないであけた部分を「マスあけ」という。

両手読みの動作の習得と同時に、一字一字をとらえるための点字の枠組みを十分に意識する必要がある。点字用紙は罫線のない白紙と同じであるから、ただ点があるだけではそれが何を表しているのかが分からない。行や行間あるいは隣のマスや隣の点との相対的な位置関係で、その点が何の点で、それが何の点字記号を表しているのかを判断することになる。その意味で、文字としての点字を習得する前に、点字の枠組み（行・マス）の

イメージを学習しておくことが重要である。

２　点字の枠組みを意識化するための題材例

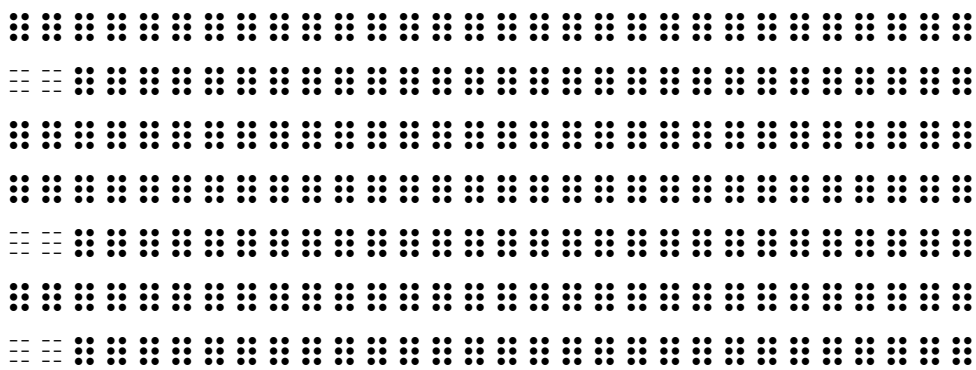
点字では通常、書き出し位置は二マス下げて３マス目からである。それに見出しなどが入る場合、さらに二マスずつ下げて、書き出しは５マス目、７マス目（文章の階層によっては９マス目）からとなる。書き出し位置の下がった行をみつけることも必要な課題となる。

この節では、点字での書き出し位置のへこみや一マスあけ・二マスあけについて学習する題材を掲載し、点字の枠組み（行・マス）の意識化を図る。第１節の題材と同様に、上下の行の干渉を避けるために行間は９㎜程度あけることが望ましい。教材の作成では、１行ずつあけてもよい。

【題材４－３】

「始まりがへこんだところを探しましょう（１）」

「始まりがへこんだところを探しましょう（２）」



⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿
⠶⠶⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿
⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿

「始まりがへこんだところを数えましょう」

⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿
⠶⠶⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿
⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿
⠶⠶⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿
⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿

⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿
⠶⠶⠶⠶⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿
⠶⠶⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿
⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿
⠶⠶⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿
⠶⠶⠶⠶⠶⠶⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿
⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿

（ねらい及び留意点）

文章を読む際に不可欠な、書き出し（段落）意識のレディネス教材である。点字の読みに熟練してくると行頭を縦に指で触れて段落の箇所を見つけるが、ここでは縦に触れることをねらいとせず、書き出し位置が上の行と違うということを意識できたらよい。

書き出し位置がどのくらいへこんでいるか（２・４・６マス）、言葉に出せるとよい。声に出して数えたり、「２行目がへこんでる！」などと言葉にしたり、数える速さを友だちと競ったりなど、言葉も育てることを意識して扱ってほしい。

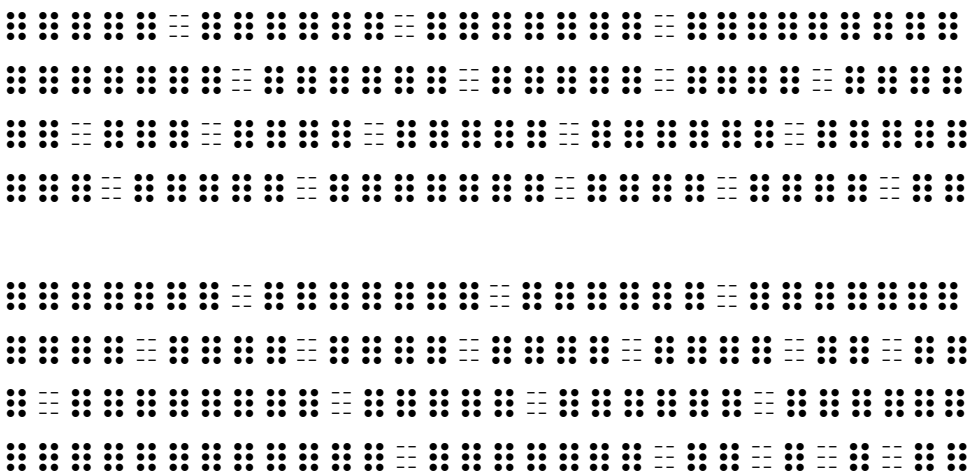
提示する際には、最初の行と最後の行は、へこんでいない基準の形とする。

片手だけによる弁別学習はここではしないが、両手指の行たどりに習熟したら、左右それぞれの指で別々にたどる。

【題材４―４】

「一マスあけの切れ目を探しましょう」

「一マスあけの切れ目を数えましょう」



「二マスあけの切れ目を探しましょう」

⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠒⠒⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠒⠒⠿⠿⠿⠿⠿⠿
⠿⠿⠿⠿⠿⠒⠒⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠒⠒⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠒⠒⠿⠿⠿⠿

⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠒⠒⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠒⠒⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠒⠒⠿⠿⠒⠒⠿⠿
⠿⠿⠿⠿⠒⠒⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠒⠒⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠒⠒⠿⠿⠿⠿⠿⠿

⠿⠿⠒⠒⠿⠿⠿⠿⠒⠒⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠒⠒⠿⠿⠒⠒⠿⠿⠿⠒⠒⠿⠿⠿⠿⠿
⠿⠿⠒⠒⠿⠿⠒⠒⠿⠿⠒⠒⠿⠿⠿⠿⠒⠒⠿⠿⠒⠒⠿⠿⠿⠿⠒⠒⠿⠿⠿⠿

⠿⠿⠿⠿⠿⠒⠒⠿⠿⠿⠿⠒⠒⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠒⠒⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿
⠿⠿⠿⠿⠒⠒⠿⠿⠒⠒⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠒⠒⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠒⠒⠿⠿⠿⠿

（ねらい及び留意点）

学習のねらいは、一マスあけ（二マスあけ）の弁別と、マスあけがあっても逸脱しないで行をたどることができるようにすることによって、触読に際しての行中の一マスあけ（二マスあけ）のイメージを形成することにある。また、⠿の一マスによって、点字の一マスのイメージを形成させることも含まれている。

声に出して数えたり、「ここ、あいてるよ」などと言葉にしたり、数える速さを友だちと競ったりして、言葉も育てることを意識して扱ってほしい。

最初は一マスあけだけの教材で一マスあけに慣れるようにし、次いで二マスあけだけの教材で二マスあけに慣れさせる。一マスあけと二マスあけを最初から同時に出さないようにする。

⠿のほかに、⠒や⠒の間にマスあけを入れた教材などを用意して、学習活動に変化をもたせるようにする。

行たどりと改行動作は、１行当たり数秒以内の速さで行うことができるようにする。そうすることによって通過時間の差だけで一マスあけか二マスあけかを感覚的に弁別できるようになる。

両手指の行たどりに習熟したら、左右それぞれの指で別々にたどる。

【題材４－５】

「一マスあけの数を数えましょう」

⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠶⠶⠿⠿⠿⠶⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠶⠶⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿
⠿⠿⠿⠶⠿⠿⠿⠶⠿⠿⠿⠿⠿⠶⠶⠿⠿⠿⠶⠶⠿⠿⠿⠿⠶⠿⠿⠿⠿
⠿⠿⠿⠿⠿⠶⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠶⠶⠿⠿⠿⠿⠶⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠶⠶⠿⠿⠿
⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠶⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠶⠶⠿⠿⠿⠶⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿

「二マスあけの数を数えましょう」

⠿⠿⠿⠶⠿⠿⠿⠿⠶⠶⠿⠿⠶⠶⠿⠿⠿⠿⠿⠶⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠶⠿⠿⠿
⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠶⠶⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠶⠿⠿⠿⠿⠿⠶⠶⠿⠿⠿⠿⠿⠿
⠿⠿⠶⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠶⠶⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠶⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠶⠿⠿
⠿⠿⠿⠶⠿⠿⠿⠿⠿⠶⠶⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠶⠿⠿⠿⠿⠿⠶⠶⠿⠿⠿⠿

（ねらい及び留意点）

両手で行をたどり、一マスあけまたは二マスあけを弁別する。二マスあけの部分では、指を左右にかなり動かさないと識別することができない場合もある。そこで、できるだけ速く行たどりをすることによって、一マスあけと二マスあけの違いを逆行しなくても感じ取ることができるようにする。

左手だけで行をたどり、一マスあけまたは二マスあけを弁別する活動、右手だけで行をたどり、一マスあけまたは二マスあけを弁別する活動もできるとよい。

声に出して数えたり、「あった！」「これは二つあいているね。」などと言葉にしたり、数える速さを友だちと競ったりなど、言葉も育てることを意識して扱ってほしい。

【題材４－６】

「⠿の数を数えましょう（１）」

⠿⠶⠿
⠿⠶⠿⠶⠿
⠿⠶⠿⠶⠿⠶⠿⠶⠿⠶⠿

⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿
⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿
⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿

⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿
⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿
⠒ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿
⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿
⠒ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿
⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿

「⠿の数を数えましょう（２）」
⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿
⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠒ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠒
⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿
⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿
⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿

⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿
⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿
⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿
⠒ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿
⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿
⠒ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿
⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿ ⠒ ⠿

（ねらい及び留意点）

⠿の数を数えながら、一マスの感覚を培う教材である。始まりが二マス下がった行も数え落としがないようにする。

⠿でない点（⠤　⠶　⠒　⠖　⠲）が混ざり合ってきても、確実に一マスを意識できるようにしていきたい。

⠿を探しながら行をたどるなかで、言葉も育てることを意識し、楽しみながら取り組めるように留意する。

両手指の行たどりに習熟したら、左右それぞれの指で別々にたどる。

【題材４－７】

「変わり目はどこでしょう（１）」

⠿⠿⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠿⠿
⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠤⠤⠿⠿
⠿⠿⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠿⠿⠿⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠿⠿⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠿⠿⠤⠤⠿⠿

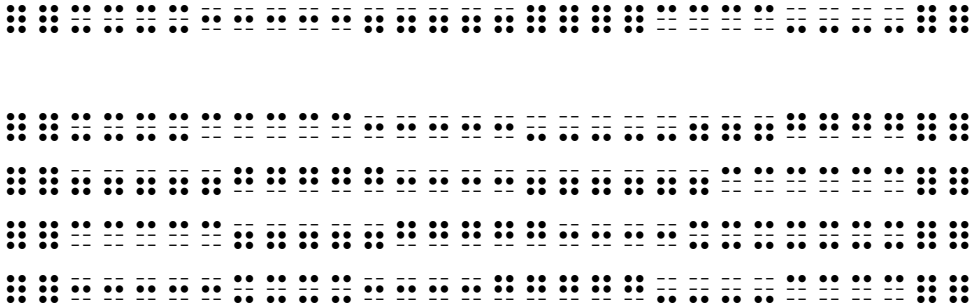
⠿⠿⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠿⠿
⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠿⠿
⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠿⠿
⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠿⠿

⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠿⠿
⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠿⠿
⠿⠿⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠿⠿
⠿⠿⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠿⠿

「変わり目はどこでしょう（２）」

⠿⠿⠿⠿⠿⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠿⠿⠿⠤⠤⠤⠤⠤⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿
⠿⠿⠤⠤⠤⠤⠿⠿⠿⠤⠤⠤⠤⠤⠿⠿⠿⠤⠤⠤⠤⠤⠿⠿⠿⠤⠤⠤⠤⠿⠿
⠿⠿⠤⠤⠤⠿⠿⠿⠤⠤⠤⠤⠤⠿⠿⠿⠤⠤⠤⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿

⠿⠿⠿⠿⠤⠤⠤⠤⠿⠿⠿⠿⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠿⠿⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠿⠿⠤⠤⠿⠿
⠿⠿⠤⠤⠤⠤⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠿⠿⠿⠿⠤⠤⠿⠿
⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠿⠿⠤⠤⠤⠤⠤⠤⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿⠿



（ねらい及び留意点）

行途中における変化の弁別のための教材である。両手指で正しく行をたどりながら、一マスの感覚（枠組み）を横の段（①④、②⑤、③⑥の点）のイメージでとらえる。

最初は変化のたびに⠒⠒や⠿⠿に戻ることにしてあるが、難易度を変えて配列してある。

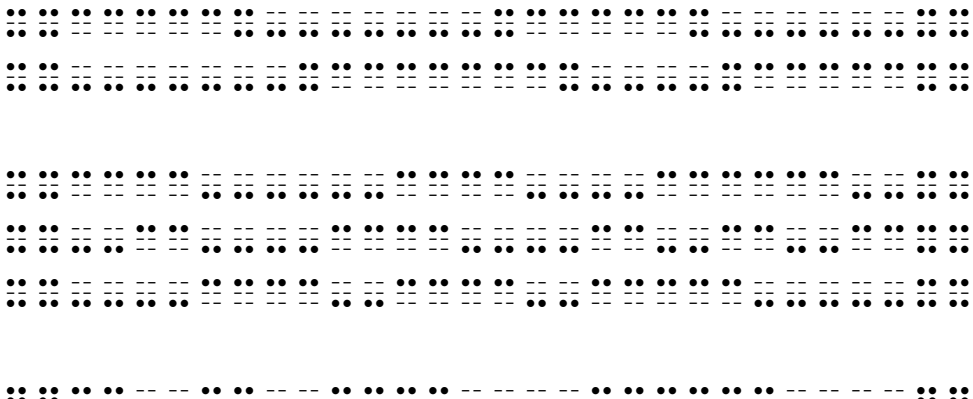
⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒であっても、指の上下の動きを排除して、常に指の腹でなめらかにたどる動きを身に付けたい。

行たどりと改行動作は、最初はゆっくり行って変わり目を確実に弁別できるようにし、慣れるに従って次第に速く行っても弁別できるようにする。

両手指の行たどりに習熟したら、左右それぞれの指で別々にたどる。

【題材４－８】

「上と下のどちらでしょう（１）」



⠿⠿⠒⠒⠒⠒⠶⠶⠒⠒⠶⠶⠶⠶⠒⠒⠒⠒⠶⠶⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠶⠶⠿⠿
⠿⠿⠶⠶⠶⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠶⠶⠒⠒⠒⠒⠶⠶⠶⠒⠒⠒⠒⠶⠶⠒⠒⠿⠿

「上　中　下のどれでしょう（１）」

⠶⠶⠶⠶⠶⠶⠶⠒⠒⠒⠒⠒⠶⠶⠶⠶⠶⠶⠶⠶⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠶⠶
⠶⠶⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠶⠶⠶⠶⠶⠶⠶⠶⠶⠶⠒⠒⠒⠒⠒⠒⠶⠶⠶⠶

⠶⠶⠶⠶⠶⠶⠶⠶⠶⠶⠶⠶⠶⠶⠶⠶⠶⠶⠶⠶⠶⠶⠶⠶⠒⠒⠒⠒⠶⠶
⠶⠶⠶⠶⠶⠶⠶⠶⠶⠶⠶⠶⠶⠶⠶⠶⠒⠒⠒⠒⠶⠶⠶⠶⠶⠶⠶⠶⠶⠶
⠶⠶⠶⠶⠶⠶⠶⠶⠶⠶⠶⠶⠶⠶⠶⠶⠶⠶⠶⠶⠒⠒⠒⠒⠶⠶⠶⠶⠶⠶

（ねらい及び留意点）

行途中における変化の弁別のための教材である。比較しやすい上下から行い、それを合わせた⠶をもとに、最初と最後は⠿⠿や⠶⠶で明確にしてある。

「上、中、下」と声に出しながら行をたどるなど、興味を喚起しながら楽しんで取り組めるようにしてほしい。

両手指の行たどりに習熟したら、左右それぞれの指で別々にたどる。

第３節　単位となる一マス６点の弁別

１　６点の弁別のための指導方法や工夫

点字は六つの点の組み合わせによって構成されている。読み方向の凸面では、左上から左の中、左下と順に①の点、②の点、③の点で、右上、右の中、右下と順にそれぞれ④の点、⑤の点、⑥の点である。

この六つの点の組み合わせである 63 通り（マスあけを入れて 64 通り）を、触覚的に読み取ることによって点字の読みが成立する。したがって、一マスにおける一つ一つの点の位置を正確に弁別できるようにならなければならない。

点字触読の学習については、一マスを①②③の左側の３点と④⑤⑥の右側の３点との半マスずつに分けて弁別の練習を行い、その半マス二つを合